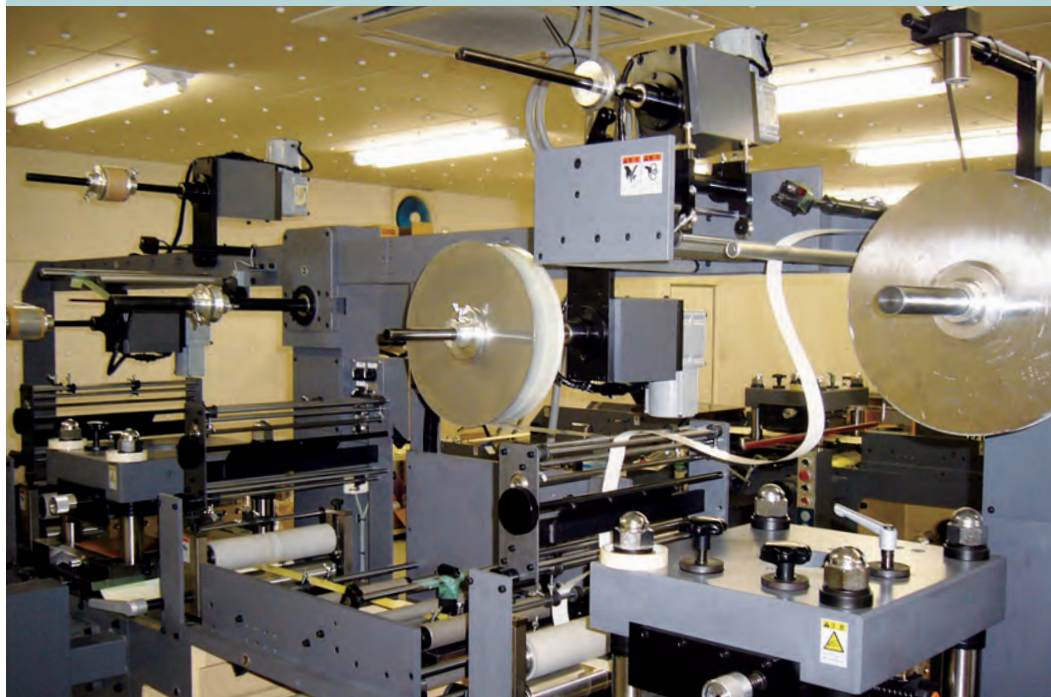


独自の打ち抜き加工設備で 他社と差別化

納期相談
コスト相談
オンリーワン技術
メイドインジャパン
試作可
小ロット
量産対応



独自設備により、QCD面で優位に立つ

業務内容 樹脂フィルムや 粘着テープを加工

樹脂フィルムや粘着テープの打ち抜き加工をメインに手がける。加工品は液晶保護フィルムやウォーターサーバー用ワンウェイPETボトルの吊りテープ、自動車関連部品である遮光両面テープや放熱シートなど多岐にわたる。

同社は平成7年に非金属用プレス機1台を導入し、貸し工場を拠点に家族経営でスタートした。現在は2代目の田城友成社長のもとで3工場を構え、十数台のプレス加工機に加え、貼り合わせ機など関連設備も充実している。取引先は約70社あり、小口から大口まで幅広い案件に対応している。

強み 材料特性を見極め、 独自の工法・設備を考案

多種多様なフィルムやテープの材料特性を見極め、最適な打ち抜き加工を実践する。加工の寸法精度でマイクロメートル単位の要求にも応える。また、プレス機械の改良や効率的な金型の組み合わせを考案し、工程短縮に努めている。打ち抜きだけでなく、曲げや貼り付けなどの後加工も引き受ける。

大阪府東大阪市の機械メーカーの協力を得て、独自の連続プレス加工機を開発した。この設備の導入により、品質を維持しながら、短納期、コスト削減に成功した。クリーンルームも設置し、精密な医療関連部材などの加工にも対応する。

品質管理 不良率は5%以内を徹底

「高い品質を維持できれば、コストや納期

も自然と良くなっていく」。田城社長は品質重視のもののづくり姿勢をこう語る。年間300〜400種類ものプレス加工品を打ち抜くが、徹底して不具合の撲滅に努める。加工品は人手をかけて目視による全数検査を実施。

田城社長が品質管理の責任者となつて、ISO9001認証を平成20年に取得し、大手電機メーカーからリチウムイオン電池の品質自主保証会社の認定も受けた。生産現場では不良率は5%以内に収めることも厳守する。

今後の展望 50年続く会社を目指す

「常識ではプレスできない素材を加工できるプレス機械を協力会社と開発中。3年後をめどに現場に導入したい」と田城社長は明かす。新たな設備の開発は、今後の事業発展に欠かせないと判断し意欲的に進める。

家族経営でスタートした同社であるがゆえ、アットホームな雰囲気は今も重視し、社員が高齢になつても長く働ける職場を目指している。人材育成においては、マンツーマンの教育体制で独自技術の継承も進めていく。創業から22年が経過し、田城社長は「まずは50年続く会社を目指す」と意気込む。



多様な材料の打ち抜き加工が可能



液晶保護フィルム

当社の歴史



業界の右も左もわからないまま当社は起業しました。加工品の価値を認めてもらうまでは苦勞もしました。非金属の打ち抜き加工で先行していた同業他社と差別化するため、独自設備や工法を考案し、小ロット・多品種・高精度のもののづくりの実現が今につながっています。

代表取締役社長 田城 友成さん

大阪29 ISO 9001

主な事業内容

樹脂フィルム、粘着テープの打ち抜き加工

主な取引先(納入先)

ゲーム関連アクセサリメーカー、PETボトルメーカーなど

●住所 〒572-0076 寝屋川市 仁和寺本町4-2-30
●TEL 072-815-0444
●FAX 072-815-0445
●創業 平成7年1月
●設立 平成7年1月
●資本金 300万円
●従業員 15名